

# 2024年度 学校評価報告書

学校名	三田市立富士中学校
-----	-----------

## 1 学校教育目標

「夢や希望をもち、目標に向かってたくましく生きる生徒の育成」  
 真（真実を見抜く力、学力）善（思いやりの心）美（誇り、美しい行動）  
 ～めざす学校像～  
 ◆安全・安心の学校＜学習活動、環境の充実、適切な危機管理＞  
 ◆開かれた学校＜学校・家庭・地域、異校種、関係機関との連携＞  
 ◆あたたかい学校＜迅速・組織的な生徒指導、教育相談の充実、共感的生徒理解＞

## 2 今年度の学校重点目標

- ① 人権尊重の精神に徹し、人の痛みを感じ行動できる生徒を育成する人権教育の推進
- ② 安心・安全な学校づくりをめざした、生徒指導体制と感染症対策の充実
- ③ 学力向上に向けた授業改善の工夫
- ④ 特別支援教育の充実と発展
- ⑤ 学校・家庭、学校園所連携の推進
- ⑥ 学校業務改善（勤務時間の適正化）の推進
- ⑦ 家庭・地域との連携

## 3 総合的な自己評価

中学校区小・中・特別支援学校でめざす子ども像を共有し、学校教育目標を職員全体で意識した取組を進めてきた。夏季研修会において小中合同で9年間を見据えた学習指導をテーマに「中学校卒業時に向けた進路指導について」共通理解の場を設けた。コロナ以前とほぼ同じ形態で行事を行うことができ、想像を超える生徒の活発な活動が見られた。今年度も人権尊重を目指した教育活動に重点を置き、普段の学校生活のあらゆる場面で人権教育、道徳教育の充実を図り、生徒たちがお互いの良さを認め合い学校生活を送れるよう取り組んできた。また、学習においては、評価アンケート結果を見ると、「授業がわかりやすい」「学力向上に取り組んでいる」との肯定的回答が8割から9割となり、学校行事や生徒会活動にも肯定的な生徒意見が多くみられる。ただ、生徒と保護者の回答結果には差もあるので、次年度は小さなことでも生徒の様子がわかるような機会を増やし、情報発信を工夫し、家庭や地域の理解と協力を得られるよう努力したい。そして、家庭・学校・地域の連携のもと学校教育目標の実現を図りたい。

## 4 総合的な学校関係者評価

日頃の生徒の様子から、概ね落ち着いて、安心して学校生活を送っていると感じる。  
 学校からの保護者への広報や情報発信については、デジタルを活用し行事以外にもいろんな視点から発信すると保護者に伝わりやすい。教職員の工夫や努力をもっと保護者に伝えて欲しい。  
 より具体的に問題行動も含め学校重点目標への達成度や到達度を明記されるとよい。そうすることで開かれた学校に近づけるものと考えられる。  
 授業が分かりやすいことは当然であり、そう捉えていない生徒達もいることを大きく受け止めてほしい。子ども達が主体となった地域との関わりを深めることで、学校支援の協力も得やすくなると思う。

## 5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目（取組内容）	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育目標	学校教育目標や重点目標、目指す生徒像・学校像を意識した教育活動が日々実践されているか。	「粘り強く取り組む」「自分や富士中が好き」「楽しく学校に通っている」という項目で昨年度を上回り、8割から9割の肯定意見が生徒に見られ、自己有用感が高まっている。教職員が重点目標を意識し生徒の頑張りを認める思いを持ち生徒がいきいきと活動できるよう教育活動を行ったことや活発な小中児童生徒会活動の成果もあり、ひまわり特別支援学校との交流も活発となり、教職員の意識の高まりも見られた。	今年度は小中連携のひとつとして、「進路」を取り上げたが、今後も校区の小中特別支援学校で、教育目標やめざす生徒像の方向性を揃え、テーマを持ち、9年間を通して目標や目指す生徒像を意識し生活できるように準備したい。保護者、地域、教職員が一体となって生徒の自尊感情や愛校心を高め、安全で美しい教育環境を維持する努力を行う。	目標に向かって日々粘り強く前向きに頑張っているかは保護者としてはどのように評価すべきかわかりにくい。 地域からの協力がもっとできればと思う。 日々の生徒のいきいきとした教育活動が、ひまわり特別支援学校との活発な交流や教職員の意識の高まりにつながると考える。
	生徒が学習する場としての教育環境が整っているか。	生徒の回答は昨年度を上回っているが、保護者の回答は下回っているという課題がある。生徒は自ら美しい環境を前向きにつくりだしている。美化委員会を中心に、意識しながら丁寧な清掃に取り組んでいる。 整備に力を注いできた。まずは危険がないかを第一に取り組めた。保護者や地域の理解と協力を得ながら、不審者対応を進め、生徒が学校滞在中はすべての門を閉じるなど対策を強化しているが、透していないと考えられる。	築34年を経て、学校施設の老朽化という課題もあるが、今後も引き続き学校としてできる範囲で修理や整備に力を注いでいく。次年度も丁寧な日々の清掃への取り組みを生徒会美化委員会主導ですすめたい。ただし、一部老朽化に対する不安も大きい。ため委員会に対しても改修や施設の更新を依頼し続けていく。	34年を経過した施設は老朽化しており、フラワータウンにおける将来の中学校編成を考えると、思い切った大修繕が望まれる。生徒が学習する場としての教育環境を整えることが最優先課題であり、学校にできることは限られているので、安心安全の学校に向けての学校設置者の配慮・改善が求められる。
教育課程 学習指導	適切な時期と目的により、充実した学校行事を実施できているか。	学校行事や部活動、生徒会活動において、生徒の肯定的な回答が8割を超え、昨年度よりも上回っている。コロナ禍以前の活動にもどすことができ、生徒の自尊感情や自己有用感を高められた。学校行事や部活動、生徒会活動を活発に行い、生徒・保護者・教職員共に生徒がいきいきと活躍する場を持つことができたと感じている。	ねらいを定め振り返りをしっかりと行い、あらゆる面でバランスが取れた活動となるように、都度見直しを行い、整理を進めるために、教育的効果を考え、熱中症など、こどもの安全を最優先にしながら、家庭や地域に開かれた行事を心がけ、教育活動に理解を得られるようにしていく。	熱中症対策を充分行い、生徒も教職員も含め有意義な学校生活を送ってほしい。 学校行事や部活動など、生徒たちはいきいきと活動しており、意欲的なところが保護者にストレートに伝わればと思う。 部活動の地域移行により、活動がどう変わるのか地域にも具体的な情報が欲しい。 行事では子ども達の頑張りを、教職員の指導やフォローの姿を直接見ることができて評価しやすい。

	<p>「学力向上指導改善プラン」に基づき、授業改善・家庭学習・読書活動・放課後の学力補充・小中連携の充実に取り組んでいるか。</p>	<p>「学校の授業がわかりやすいか」「授業の工夫や学力補充など学力向上に取り組んでいるか」については生徒は8割以上の肯定的意見であるが、保護者の意見は5割ほどにとどまっている。わかりやすい授業や学力向上の取組については、全校生徒を対象に授業評価アンケートを実施し、授業改善に取り組んだ。「自分から発表や宿題、復習をしているか」については生徒・保護者とも昨年度を上回ったものの肯定的な回答は6割にとどまる。</p> <p>教職員の回答からはわかりやすい授業に取り組む姿勢は見取れる。まだまだ読書習慣・意欲は依然として低い傾向がみられるのが課題である。</p>	<p>今後は「学力向上指導改善プラン（授業改善・家庭学習・学力補充・読書・小中連携）」に基づいた取組みを全体としてさらに充実させ、学校の状況を積極的に発信する等、保護者の理解へとつなげていきたい。発言しやすい授業の雰囲気づくりや声掛け、対話的な学びの工夫に取り組みたい。特に読書については、学校の朝学習の時間を用いた定期的な朝読等の取組に工夫をし、読書活動の機会を増やしたい。家庭学習のしかた(タブレット使用を含む)」を今後も更新し、生徒が目標を持って学習へ取り組めるよう工夫していく。</p>	<p>読書については、楽しさやおもしろさをもっと伝えるように本が好きな方から市立図書館などをお願いして講習をしてみればどうか。部活動や習い事で時間がなかったり、家ではゲームやスマホなど楽しいことがたくさんあり、読書習慣にはつながらない。学校と家庭両方で協力して取り組む必要がある。</p> <p>わかりやすく授業に取り組む教職員の努力は感じている。学力向上指導改善プランを保護者等にもわかりやすく示していく必要がある。</p> <p>活字離れが叫ばれ読むことへの意識づけをどう高めるかが課題である。タブレットは必要不可欠だが、Wi-Fi環境の格差、保護者のIT活用の格差等、問題解決への支援の必要性にも目を向けるべきと考える。</p>
生徒指導	<p>教育相談の充実により生徒理解に努めるとともに、問題行動の早期発見・早期対応、未然防止に取り組んでいるか。</p>	<p>「生徒一人ひとりに応じた相談や気持ちをよく理解する活動をおこなっているか」では肯定的回答が生徒は8割、保護者は7割である。月一回の生活アンケートや学期に1回のいじめに関するアンケートだけでなく、日頃から生徒の様子から情報交換を適宜行い対応している。また、特に学期に1回の教育相談週間で生徒の悩みに向き合い、いじめや悩みの早期発見・早期解消に向け、真摯に努めてきた結果、相談活動や安心な学校づくりに取り組んでいる成果はある。</p>	<p>「いじめのない安心な学校づくり」を進めるべく、毎月の生活アンケートや教育相談などを継続し、生徒理解と早期発見早期対応に一層努める。教育相談にも工夫し、一層相談しやすい場になるよう整えていく。また教職員は生徒だけでなく、教職員同士でも、自己開示と質問をしあうことで、チームとして取り組めるようにしていきたい。</p>	<p>授業を参観し、生徒たちの感想を読むと、その真剣さはすばらしい。大人が思っている以上の思いやりの心を持っていると感じる。</p>
	<p>「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題に迅速かつ組織的に対応できているか。</p>	<p>「学校はいじめや暴力のない安心の学校づくりに取り組んでいるか」については、生徒の肯定的回答は9割を超え、保護者は7割であるが、昨年度を上回る。「いじめのない学校づくり」のために、毎月の生活アンケートや毎学期の教育相談、生徒指導ミニ研修会などを継続し、生徒理解や生徒の悩みに向き合い、いじめの早期発見早期対応などの取組みを継続してきた成果でもあると考える。</p>	<p>年度当初に教員研修とともに、職員会議ではミニ研修を実施している。生徒の仲間づくりも進める。今後も教職員間での報連相を欠かさず、どんな小さな変化も見逃さないよう心掛ける。日々の相談活動やアンケートで充実させ、いじめ等が疑われる場合にはいじめ対応チームを早期に開催し情報共有と方針の決定を行い、解決・解消までの対応も含め組織的に取り組んでいく。</p>	<p>言ってはいけない言葉、してはいけない行為を学校生活において教職員が注視し、いじめに繋がる言動を見抜ける力を養ってほしい。</p>
家庭・地域との連携	<p>通信や HP, オープンスクールによって家庭や地域に情報を発信し、開かれた学校づくり・信頼される学校づくりができてきているか。</p>	<p>「学校はわかりやすく情報発信しているか」では昨年より肯定的回答が増え、生徒・保護者とも9割に届いている。学年通信や学校や部活動でのメール等での発信も増えた影響か、肯定的に捉える生徒・保護者・教職員の割合が高まっている。学校の考えや活動を知っていただくことが学校教育活動への理解を深めることと捉え、より一層細やかな情報提供を心掛けたい。</p>	<p>2学期後半から、まなびポケットの運用を開始し、次年度もできる範囲で配布している通信等をデジタル化して確実に届く形に変更したり、タブレットやHPを通して積極的な情報発信を行い保護者や地域の理解を得られるよう情報発信に取り組んでいく。</p>	<p>まなびポケットの活用やホームページのアクセスがどのくらいあるのかが知りたい。</p> <p>急なデジタル化やスマホの普及は情報モラル等の心配も多い。</p> <p>紙面づくりにおいて文字ポイントを大きくして読みやすくしてほしい。読みづらいから読まないという意識の低下を防ぐために A4 用紙裏表印刷や、A3 を1枚にして読みやすくするとよい。</p>

	<p>学校運営へのPTAや地域住民の参画、及び協力を推進しているか。</p>	<p>「生徒は地域行事、ボランティアに参加し自分の住んでいる地域が好きか」については、肯定的意見は生徒は7割、保護者は6割となっている。和 문화体験、放課後の学力補充、部活動補助、生け花、体育大会や文化祭の受付、トライやるウィーク指導ボランティアなど、保護者や地域の方々に多数、ボランティアとして協力をいただいている。また、地域や中学校区の学校と一体になり、生徒会児童会で共通の取り組みをしたり、地域のお祭りなどで生徒が司会や演奏で参加させていただくことができたり、クリーンデーで直接地域の方と触れ合える良い機会を得ることができ地域の一員としての自覚やあたたかく見守っていただいたり支えられていることに気づき感謝の気持ちが高まっている。これらの活動を通し、学校と家庭・地域が連携し、富士中生であることに誇りを持ち、地域にさらに愛着をもてるよう今後も取り組みを続けたい。</p>	<p>より一層、教科や行事での学校支援ボランティアのタイムリーな導入を行っていく。また、生徒の地域クリーンデーやその他のボランティアへの参加・地域のお祭りへの参加などの機会をつくり、地域の一員としての自覚を促し、地域やPTAと共に更に自己有用感も高めるよう努力する。また、学校の活動を知っていただくことが学校教育活動への理解を深めることと理解し、より一層細やかな情報提供を心掛けたい。PTAについては、従来のPTA組織から新しい学校支援保護者会の組織を今後2年間かけて検討し、実施、運用にちかづけていきたい。</p>	<p>地域としても、地域の行事や活動を学校へもっと発信していきたい。子どもたちがやりたいボランティアや活動を自分たちで考えて地域の方々と繋がっていけると更に良好な関係が築ける。</p> <p>地域の祭りでの吹奏楽部の演奏や舞台進行をはじめ、クリーンデーでの行事参加による住民とのふれあいの機会は積極的にされている。今後は生徒からも地域行事について、企画や運営方法のアイデアや意見が出れば、地域の愛着が増す。ブースでの参加も検討を願う。</p> <p>三田で生まれ育った生徒が、成人しても三田で暮らしたいと思える学校づくりをぜひ目標としてほしい。</p>
--	--	--	--	--